

目次

令和5年度事業の中間報告を特集します

- ◆第45回企画展「うみといきる」とつ良一・原画展
- 会期：4月2日（日）～4月16日（日）
- ◆第46回企画展「中村哲・アフガン最後の言葉」
- 会期：5月2日（火）～8月2日（水）
- ◆第47回企画展「松岡大峰書作展」
- 会期：8月18日（金）～8月30日（水）
- ◆第1回文学講座「うみといきる」
- 講師：福井 照（絵本作家・元衆議院議員）
- 講師：金田義行（香川大学地域強化研究センター特任教授）
- 講師：松本敏郎（黒潮町長）
- 絵本の読み聞かせ：坂本あや（大型紙芝居制作集団「おはなし玉手箱」主宰）
- 日時：4月8日（土）14時～16時
- ◆第2回文学講座「吟行 つばさの俳句大会」
- 講師：北大路翼（新宿歌舞伎町俳句一家「屍派」家元）
- 日時：6月11日（日）10時～15時
- ◆第17回上林暁忌俳句大会
- 日時：8月27日（日）9時～16時



上林暁文学のふるさと

あかつき 第39号

大方あかつき館

〒789-1193 高知県幡多郡黒潮町入野 6931-13
TEL: 0880-43-2110 FAX: 0880-43-0222



町民ギャラリーでの展示風景

南海トラフ巨大地震による津波新想定で、34メートルの浸水高さが示された黒潮町でいつもと変わらぬ日常生活を送ることができる術を、優しく教えてくれる絵本の原画展を開催しました。

この絵本は、黒潮町立図書館で貸し出ししていますのでご利用ください。



いとう良一・画

第45回企画展「うみといきる」とつ良一・原画展



写真提供：ペシャワール会



ペシャワール会所蔵の写真展



写真提供：ペシャワール会

第46回企画展「中村哲・アフガン最後の言葉」

入賞作品評

選者 岡林知世子 先生（ホトトギス同人）



プロフィール
昭和44年10月、高知の職場句会を始める。俳誌「勾玉」「ホトトギス」「玉藻」に投句。
昭和52年4月鎌倉虚子忌に出席。そこで亡深川正一郎先生と出会い俳句を享受された。
昭和54年1月号「ホトトギス」初入選。／霧深し旅程を少しゆるめねば／。
昭和55年「野分会」発足と同時に入会。稲畑汀子先生の指導を受ける。平成4年「ホトトギス」同人。／父土に還る夕焼子焼けかな／の句で準花鳥風詠賞。
現在、高知の「ホトトギス」を代表する女流俳人。

《入選》	曉忌くちらの里の海静か	四万十市	吉岡 鈴代
	底紅の底の底まで日のそぞぐ	高知市	竹崎 富紀
	大土佐の碧さを語る秋遍路	愛媛県	今城 真人
	万緑の山を染めゆく夕日かな	大月町	柴岡 文子
	松原の色なき風に吹かれけり	四万十町	藤原佳代子
《佳作》	人涼し心一つに暁忌	神奈川県	花井 睦
	会ひたきと書いて灯籠流しけり	室戸市	山本 千秋
	盆踊上手に踊るほど哀し	土佐町	山下 沙月
	種植えの準備の燭ラッキョ畑	四万十市	寺尾 静代
	豪商の大算盤や松手入	四万十町	中平キリン

第46回企画展によせて

「ふと目に止まる」という行為は、誰しも経験があろう。

事の発端は、昨年第44回企画展「文と本と旅と」の取材で、北九州市の火野葦平資料館を訪問し、坂口館長さんから火野葦平の旧居「河伯洞」に案内された時の事である。

旧居「河伯洞」に入って管理人の藤本女史から家の中の説明を一通りお聞きして、その帰り際に、物珍しさも手伝って他の部屋を観覧していると、一室に『中村哲書斎』とあった。

中村哲といえば、私に限ってのことではあるが、火野葦平よりも有名な存在であるので、葦平とは同郷の繋がりで、何かにあやかっただけのことであろうかと思っていたところ、中村哲は、火野葦平の妹、秀子の子ともであり、葦平とは伯父甥の関係であったことに驚かされた。

事前にもう少し勉強しておくべきであったと、猛省したことは言うまでもないが、この事実が判明してからすぐに思ったことだが、中村哲の顔は葦平の父親によく似ていると感じたが、皆さんの印象はどうであろうか。

2019年12月4日アフガニスタン・ジャララバードで、中村哲（当時73歳）が乗った車が武装集団に襲撃され、医師中村哲を含め6人が死亡した。中村哲は、干ばつや戦乱で荒廃したアフガニスタンで、医療や灌漑事業による復興支援に力を尽くしていた。

今、そんな彼の功績を讃えるべく、有志らの Facebook では、中村哲氏にノーベル平和賞を授与されてはどうかとの運動が盛り上がっている。無論故人には授与されない賞ではあることを理解しつつも、賛否両論が飛び通っている現状をみると、中村哲の死は返す返す残念でならない。

今回の企画展では、中村哲のアフガニスタンでの功労を著書や写真資料及び映像で紹介し、彼の存在をより身近に感じていただければと思い企画した。

上林暁から火野葦平を介し、中村哲にまで至るこの人間関係の有様。なんと不思議な繋がりなのだろう。

葦平本百冊上梓記念『花冊集』（1955）に、上林暁が寄稿した「麦と兵隊」中の一人物について（上林暁全集には未収録）を読むと、上林暁の交遊の広さとその関係の深さには、あらためて感動を覚える。

本企画展開催にあたって、火野葦平資料館の坂口館長さんをはじめ、坂口氏をご紹介くださった秋元千恵子様や、中村哲氏のご遺族の皆様、ペシャワール会には多大なご協力を賜りました。深く感謝し、御礼を申し上げます。

第47回企画展

「松岡大峰書作展」

黒潮町入野松原、上林暁生誕の地碑の近くに、35歳の若さで亡くなった歌人、川村八郎の歌碑がある。

過ぎゆきはなべて寂しと
雨あとの下駄にはりつく花びらをはぐ
流れ藻の砂に乾ける夕浜に
引きあげてくる漁舟白し

これを揮毫したのが八郎と同郷の上田ノ口生まれの松岡大峰だ。

期間中の展示会場には、大峰に習字を習ったという来客や、60年振りの再会を懐かしむという感想文もあり、幡多地域の書道の総帥であった片鱗が見えた。

第 47 回企画展

展示作品リスト

1. 「無」 木製額
2. 「諦」 木製額
3. 「独坐」 木製額
4. 「秋興四首」 アルミ製額
5. 「従軍北征」 六曲屏風
6. 「玉露」 八枚物 アルミ製額
7. 「雙石」 四曲屏風 アルミ製額
8. 「寿」 扇面三段表装 軸仕立て

町民ギャラリー

2023.8.18～2023.8.30

これらの作品は、令和3～4年度の2箇年で装幀したものです。

まつおか・たいほう

（本名・茂、1907～80 年）黒潮町上田ノ口生まれ。小学校教員の後、文検に合格した佐川高等女学校を皮切りに宿毛高校、中村高校で書道教諭。書は初め鈴木翠軒、川崎白雲の指導を受け、その後、山崎大抱、伊藤神谷に師事。63年の第17回県展で初特選、68年の22回展で無監査。県外でも書道芸術院賞、大日本書道院金賞など受賞多数。



「雙石」 四曲屏風と（左）「従軍北征」六曲屏風



「秋興四首」



川村八郎の「歌碑」（1968 年）

第2回文学講座

「吟行」つばさの俳句大会」



北大路翼先生による選評風景

俳句初心者への優しいアプローチとして、アウトロー俳句の指南者、北大路翼氏を招聘し俳句大会を開催した。親子連れの多い参加者の中で「職業・俳人」という肩書を持った男性も現れ、会場は異様な賑わいになった。
午前の部の吟行は、生憎の雨天を伊田岬の上林暁文学碑「弔い鳥」周辺へ出掛けた。
参加者は、肌寒い梅雨の中ではあったが、岬からの眺望や雨の情景などを詠んでいた。
午後の大会では、北大路先生から全作品へ詳しい講評をしていただき、会場内はその都度笑い声や歓声が上がり、終始和やかな雰囲気の中での大会となった。
全36句の作品の中から入賞された作品と入賞者は次のとおりです。（敬称略）

特選	あじさいはきれいだけど海きれい	秋森 奏海（黒潮町）
秀作	たいのかおうみにいるからさわれない	塩崎さくら（黒潮町）
秀作	いのみさきどこにいるかなくじらさん	塩崎さくら（黒潮町）
佳作	弁当をふるえて食べる初夏の海	秋森多美子（黒潮町）



北大路翼先生（中央）と雨中の吟行（伊田岬）



北大路翼先生（右端）と入賞者ら

第1回文学講座

「うみといきる」

「防災と文学」をテーマに、まず、坂本あや氏から絵本の読み聞かせをしていただき、続いて20年以上都市报づくりに関わってきた福井氏が、防災・減災・国土強靱化の加速化を分かりやすく解説され、あらためて避難することの尊さを再確認させられる講義であった。

香川大学の金田教授からは、南海トラフ巨大地震研究の最前線と題して、四国地域の地震リスク評価などを紹介され、これからは防災減災教育の推進が必要だと訴えられ、最後に松本町長から、この絵本のできた経緯など解説していただいた。



香川大学 金田教授



福井 照 氏



解説をする松本町長



絵本の読み聞かせをする坂本あや氏

第17回

上林暁忌俳句大会



第17回上林暁忌俳句大会は、暁忌（没後43年）の前日にあたる8月27日（日）に黒潮町保健福祉センターを主会場に開催された。
講師・選者には、前回大会に引き続き岡林知世子先生（ホトトギス同人）をお願いした。前回はコロナ禍にあつて通信句会としたため、今大会にて初めてお目に掛かることができた。先生には、入賞作品（20句）の選考をしていただき、それら作品のひとつひとつに的確で味わい深い講評をいただいた。
今大会には、県内外から前回大会を上回る54名の参加者が、全二百十六句の作品を寄せていただき、その中で入賞された作品は次のとおりです。（敬称略）

入賞作品

《上林暁大賞》
種を採る日の香の移る暁忌 四十市 安西 佐和

《中山一志賞》
サーファアの海に一礼暁忌 黒潮町 長瀧 淳

《上林暁賞》
暁忌四万十川は清きまま 黒潮町 戸田ゆき子
金風や杖分身にどこへでも 高知市 千葉 徹
心病む妻を支へし暁忌 高知市 栗坂 海馬
青柿一つ落ちて生家は閑まれり 黒潮町 宮川 恵子
暁の生家閑かに昼の月 黒潮町 宮川 昭男
暁の納屋に酒樽暁忌 土佐清水市 山崎紀美子
ふる里に帰りし睦子あかつき忌 黒潮町 徳廣由喜子
銀漢の暁館を包み込む 高知市 千葉理枝子